

平和を愛する心・命あるものを大切にする心を養う

～ 生きることの大切さを考え、感じてほしい～

戦争の時代と呼ばれた20世紀を過ぎた今もなお、世界のあちこちで絶え間なく紛争が続いています。金城学院中学校では1994年より、毎年8月20日(全校出校日)を「平和を考える日」に制定。キリスト教主義の学校としてその精神に基づき、「共に生きる」を総合テーマに、学内はもとより学外へ向けともさまざまな取り組みを行っています。

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。

マタイによる福音書
第5章 9節

生きる勇気や希望を与える “被爆アオギリ” “被爆キョウチクトウ”

2006年10月13日、中学校の生徒たちが広島からもらい受けた被爆アオギリ2世と被爆キョウチクトウ2世の植樹式が行われました。

被爆アオギリは、1945年8月6日、爆心地から1.3km離れた広島通信局(現在の日本郵政公社中国支社)の中庭で被爆し、幹の半分が焼けただけ、えぐられた姿になりましたが、翌年には新芽を吹き、1973年に広島市の平和記念公園に移植されました。その後、「平和を愛し、命あるものを大切にする心」を後世に継承するため、全国に配られた被爆アオギリの2世の苗を、今年5月、修学旅行で広島を訪れた際にもらい受けました。一方、キョウチクトウは、被爆後いち早く咲き、生き残った人々に復興への希望と勇気を与えたものとして、全国に「平和の輪」を広げるために、平和記念公園に挿し木した花で、やはり、2年前の修学旅行で、もらい受け、いこいの庭に植樹されていたものです。今回、本校の「恒久平和を祈念するシンボル」にしよ



3Cの生徒たちによる創作劇の発表



うと校内の新たな場所に二本の木を並べ、植樹式が行われました。「アンネのバラ(表紙写真)」もいずれはここに加えていく予定です。このバラは、第二次大戦中、平和を強く願いながらも、ナチスの強制収容所で15歳の生涯を閉じた少女アンネ・フランクの遺志を伝えるために広められたもの。恒久平和を祈念するシンボルに相応しいものと言えます。

被爆アオギリの語り部・沼田鈴子さんは、被爆により片足を切断し、婚約者を失い、自殺までも考えましたが、アオギリのたくましい生命力に生きる力を与えられたといいます。83歳の今なお、被爆アオギリの語り部として、人々にメッセージを送っている沼田さんの元へ、3年C組の生徒たちが訪れました。今年9月に行われた恵愛祭で、被爆アオギリをテーマとした創作劇を発表するためです。

戦争の事実を受け止め 後世へと伝えていく

これら一連の活動は、中高6年制一貫教育の「総合的な学習」における「平和教育」の一環です。被爆アオギリの声なき命の叫びが物語るように、平和や命の尊さを学ぶとともに、戦争の愚かさや悲惨さを認識することが重要。時を経るにつれ、被爆者や戦争経験者が少なくなっていくなか、本校では、生徒たちの祖父母やご親類の方々が、戦争についての語り部となってくださり、平和の尊さを学ぶ良い機会となっています。

平和教育を基に、生徒たちは機会あるごとに平和について考えます。

恵愛祭のクラステーマを「戦争」とした3年H組は、結果として大賞を受賞。この活動は学内にとどまらず、学外へと波及していきました。恵愛祭展示作品の表題を「焦土日本」



「戦争展・守山」での展示と3Hの生徒たち

とし、被爆や空襲で焼け野原となった日本、なかでもここ名古屋の当時の様子を調べるために、生徒たちは名古屋各地の戦跡をめくり、見聞きしてきたことをまとめました。この活動の間、参考資料として実物戦争遺品やパネルの貸出しを「あいち・平和のための戦争展」事務局にお願いしたところ、事務局からも戦争展への出展依頼がありました。そこで「総合的な学習」の授業で作成した「平

恵愛祭を終えて 大変だったけど良い思い出

3年H組 小嶋カンナ

「今年の恵愛祭の大賞は...3年H組です!!」この言葉を聞き、H組の皆は「きゃー!!」と大喜び。私も飛び上がり、思わず涙があふれてきて止まりませんでした。

「恵愛祭のクラステーマ、何にする?」と担任の若山先生がおっしゃったとき、テーマは戦争、そして会場で折ってもらった千羽鶴を広島の「原爆の子の像」に捧げたいとすぐにまとまりました。表題は「焦土日本」。

夏休みには、グループに分かれて名古屋の戦跡に行き、カメラやビデオに収め、B紙にもまとめました。名古屋市博物館開催

の同戦争展に総合の授業で作成したクラス全員分の平和新聞と戦跡B紙を展示し、皆もスタッフとして働きました。「戦争展・守山」の方がご覧になり、展示の一部の貸出しを依頼されました。

恵愛祭では戦跡めぐりと戦争展の様子に加え、先生提供の玉音放送などのビデオを編集して、一本の映像メッセージを作りました。一番大変だったのは、それを上映する暗室作りでした。カーテンを借りてきたり、ダンボールを倒さないよう工夫したり.....でも今となっては良い思い出です。若山先生、ありがとう。そして、みんな!! 3H、最高だね!!

和新聞」と恵愛祭用の「戦跡めぐり」を出展。それらの作品は、同展に参加していた「戦争展・守山」のスタッフの目に留まり、今度は、「戦争展・守山」にも3年H組の作品を出展し

てほしいと依頼されました。恵愛祭を軸として、平和のネットワークが形成された瞬間でもあります。

平和教育の成果を さまざまな形で発信

2007年5月には、名東区に「戦争と平和の資料館」がオープン予定。そこから平和新聞の展示依頼をいただいています。

太平洋戦争が終結して60年。戦争体験を風化させず語り継ぐ役割として、修学旅行や恵愛祭のみならず、本校の平和教育の成果をさまざまな形で地域に発信していきたいと考えています。



修学旅行(広島)での見聞をつづった文集



金城学院中学校
大野木 英子 教頭

生徒一人ひとりが生きることの意味を考え、 平和の大切さを伝えていきたい。

アオギリの語り部の一人、沼田鈴子さんから、植樹式へのメッセージをいただいています。

「アオギリは声なき命の叫び。声はしないけれど、木は一生懸命訴えている。平和の大切さと戦争の愚かさ・むなしさ、原爆の悲惨さと残虐性、相手を思いやる優しい心の必要性、命の大切さを語っています。だから皆に声なき命の叫びを受け止めてもらいたい。どうか、名古屋の金城で大切に育ててくださいね。知識を知恵にかえて、平和をつくる人になってほしい。若い皆

さんに期待しています。」

被爆者の方々は高齢化が進む中、残り少ない人生のすべてをかけて、原爆の恐ろしさを語り継ぎ伝えようとしておられます。生命を産み出し、育てる女性だからこそ、生きる大切さを考え、平和を実現する人になってほしい。それが、色々な場所で語り部となっておられる方々の思いを引き継ぐことになっていくのです。中学校の校庭に移されたアオギリ・キョウチクトウ・アンネのバラをみんなの手で大きく育て、平和の大切さを伝えていきましょう。